

特別な配慮等を必要とする児童生徒支援研修会

6月26日(水)、「特別な配慮等を必要とする児童生徒支援研修会」を行いました。富山県総合教育センター 教育相談部 研究主事 瀧川 江利香先生、研究主事 村尾 伸洋先生を講師にお迎えしました。市内小・中学校の先生方が参加しました。



指導講話 子供を理解するための視点について確認される先生方



グループワーク 子供の姿から、行動の理由(つまづきの要因)、支援を考える先生方



①指導講話

特別な支援を必要とする子供を理解する視点



瀧川先生

なぜそのような行動を取るのか**理由**を探ることが大切です。離席等、目に見える行動はインパクトに残ります。しかし、行動のみに注目するのではなく、目に見えない・見えづらい**「どんな気持ち? (その子の心情)」「どうしてこの状態に? (そのときの状況)」「どんな困難を抱えている? (その子の特性)」**を探ることで、**支援**を検討することができます。

Aさん・Bさん・Cさん 3人とも離席という行動は同じですが……。

理由を探るとは…離席を例に

行動	Aさんの場合 テスト開始から10分すると立ち上がり、教室から出てしまった。テストはAさんの苦手な算数だった。	Bさんの場合 朝読書の時間。みんな静かに本を読んでいる。Bさんは、黒板前まで行き、大きな声でお笑いのネタを言い始めた。	Cさんの場合 帰りの会が始まり、日直が前に出て話し始めた。Cさんは立ち上がって、教室後ろに歩き始めた。
理由	分からない問題がある。満点が取れない。腹が立つ。	この前お笑いのネタをしたらうけた。また、やってみたい。	日直の声が大きすぎる。うるさい。もう耐えられない。
心情や状況や特性	偏った価値観(こうでなければならぬ)がある。	衝動性の高い傾向がある。	ざわざわした教室環境。聴覚の過敏さがある。
支援	結果だけでなく過程にも価値が見いだせるような働きかけをする。	思いついたときに、どうするか事前に決めておく。	座席の配慮、苦手な場面の回避を保障、イヤーマフや耳栓等の使用を提案する。

②グループワーク「一人一人にあった支援を模索する」



村尾先生

本日のグループワークのように、子供の実態把握や支援を検討する際は、**複数の先生方**で行うことが大切です。本人が何を必要としているか(支援)について考えることができます。得意なこと等、**本人の強み**を伸ばす視点をもつことも大切です。

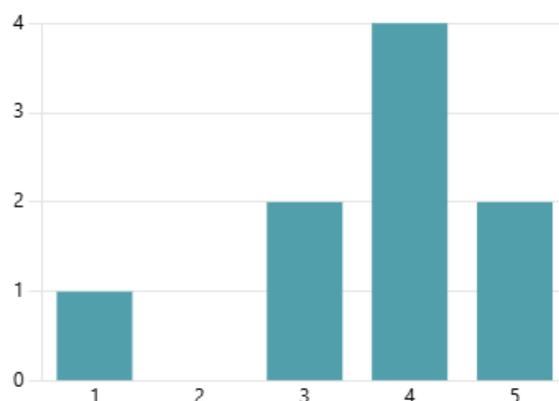
○事後アンケートより（9名回答）

3. 本日の研修の満足度を星の数でお答えください。(0点数)

[詳細](#)

3.67

平均評価



受講者の感想（小学校の先生方）

その生徒が表現している感情や行動の理由を想像して、その背景にある思いに寄り添いながら、その生徒に合った支援をしていくことが大切だと、改めて学びました。ありがとうございました。

通常級のなかの特別な支援を要する児童の対応や手立てを、先生方と話す機会を作って頂きありがとうございました。

たくさんの先生方に支援方法を教えていただき、早速、明日から実践しようと思いました。講演とグループ活動と、内容のバランスが良かった。講師の先生がグループに入ってくださったのが良かった。

基本的な内容を再確認できた。事例を提案してくださった先生のおかげでより具体的な手立てを考えることができた。参加人数が少し少ないように思いました。特別支援の基本的な考え方が既に広く行き渡ってきているのかなと思いました。

本日は、研修を受けさせていただきまして、ありがとうございました。子供達の様々な困り感には、様々な理由を想像し考えなければいけないことを痛感いたしました。また、事例検討で先生方よりいろいろな手立てを教えていただき、今後に生かしていきたいと思いました。たくさんの方を教えてくださいまして、ありがとうございました。

児童のことをあらゆる視点から考える良い機会になりました。ありがとうございました。

支援に困っている通常級の担任に、少しでも支援のヒントを提供することができてよかった。

子どもの行動の理由を探ることが大切だと分かりました。子供の行動の裏にある心情についてよく考える習慣を付けたいです。今回は発達障害についてのお話でしたが、支援を要する家庭、経済的困難、ヤングケアラー等を含めた特別な支援を要する児童生徒の対応（教室だけでなく学校全体の支援方法）についてもお話を聞けるとよかったです。ありがとうございました。